

# 地域周産期医療センター (新生児集中治療室)

## ● スタッフ (平成27年10月1日現在)

センター長 河島 尚志

医師数 センター員 6名

## ● 診療科の特色・診療対象疾患

当病棟は、地域周産期医療センターとして新宿区・中野区・杉並区およびその近隣地域のハイリスク母体の母体搬送、ハイリスク新生児の新生児搬送に対応している。当科は新生児集中治療室として、院内で管理している母体から出生したハイリスク新生児に対応することはもちろんのこと、近隣産科施設で出生した病的新生児を積極的に受け入れ地域医療への貢献できるよう努めている。新生児搬送の際は、速やかに搬送するためにできるだけ依頼先へ医師が出向き、診察したうえで当院へ搬送する「お迎え搬送」を行うように心掛けている。診療対象疾患は、早産（在胎22週0日～）・低出生体重児、新生児仮死、呼吸器疾患、代謝・内分泌疾患、感染性疾患、神経疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、遺伝・染色体疾患、奇形症候群など、の新生児内科疾患に加え、小児外科疾患、脳神経外科疾患、形成外科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、皮膚科疾患、整形外科疾患、口腔外科疾患など外科系疾患を含めた新生児疾患全般に対応している。

## ● 診療体制と実績

新生児集中治療室は本館 10 階東病棟にあり、NICU 12床、GCU 14床に対し医師6名で診療を行っている。NICU では、人工呼吸管理や中心静脈栄養などの全身集中管理に加えて、新生児仮死に伴う低酸素性虚血性脳症に対する脳低体温療法や、遷延性肺高血圧症に対する NO 吸入療法、超早産児に対する気管支ファイバー検査や呼吸機能検査など、先端医療を提供できる体制を整えている。さらに小児外科や形成外科、脳神経外科をはじめとし、主要な診療科が新生児対応可能であり、主な新生児外科疾患に対しても万全の体制で対応できる。また新生児認定看護師、NICU 専属の臨床心理士や病棟薬剤師が勤務しておりコメディカルを含めて質の高いチーム医療で患児と家族を支えている。2015年度の入院数は307名であり、院内出生が176名、新生児搬送症例が131名（お迎え搬送58名）であった。入院の内訳は主に低出生体重児（超低出生体重児・ごく低出生体重児を含む）と呼吸器疾患が多い。また、新生児仮死10例のうち4例に脳低体温療法を施行している。

周産期センター NICU 入院疾患

